

---

# リトルグリーンマン

堤 伸一

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

リトルグリーンマン

### 【Nコード】

N4975Z

### 【作者名】

堤 伸一

### 【あらすじ】

奇跡的に文明の遺跡を発見した調査隊に更なる試練がまっていた。

恒星間探査船が実用化されて、既に数十機の船が調査飛行していた。

いずれも高度な調査機材やスタッフと共に、いかなる文明も見逃さないよう、慎重に航行していた。

ほとんどの船が目的地に着き、懸命に調査したのだが科学的な新発見はあっても生命や文明を見つけることはなかった。特に生命については単細胞生物すら発見できず、落胆の色を隠すことは出来なかった。

そんな中で初期に調査を開始していた船が、文明の痕跡が残った星を見つけたのは奇跡に近かった。

星の表面は海洋もない陸地のみで、相当高密度な組成であることがわかった。表面は構築物や高架道路が集積回路を彷彿とさせるほど星の全面をくまなく覆っていた。

しかし、電波や射出物といった活動もなく、人工衛星や宇宙ステーションも見あたらず、遺棄されてから相当の年月がたっているだろうと思われた。

イメージ解析での限界を感じたスタッフたちは星の表面での調査を考えたのだが着陸船が降りる余地が星の何処にもなく、構築物を破壊してしまうおそれから、船内の開発室で小回りのきく飛行型探査ユニットを作成し、星へと降下させた。

しかし、ユニットが近づいただけで飛行するための推進ガスが構築物を粉々に砕いてしまい早々に撤退を余儀なくされた。

最後の手段として探査船から光ファイバーを直接星に垂らして映像を得ようと試みた。撮影された画像から文字と思われるマークや異星人が用いていたと思われるビークルの形状などがわかり、スタッフたちはこの方法ならさらなる調査も期待できると確信した。

地球にレポートを送ると同時に船内開発室ではさらなる調査機材の開発が始まった。

「次のニュースです。予算の無駄遣いと揶揄されていた、知的生命体探査計画で新しい発見がありました。文明の痕跡が残された星を発見したのです。しかし星の直径は約20メートルで生存していたと思われる生命体はごく小さなサイズであるとのことです。探査船では更なる調査のためこのサイズに合わせたロボットを懸命に開発中であり、さらに数年の期間が必要とのことです」

(後書き)

つっこみどころ満載だと思っんですが、書いてみたかったんです、はい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4975z/>

---

リトルグリーンマン

2011年12月16日22時53分発行